

～すてきな人・モノ・アートの冊子～

ふじみ野

ART88

アート発見発信
プロジェクト



maminka / 上原光子

Vol.9

2024.2.1



maminka **上原 光子**
うへはら みつこ

ふじみ野市内のとある住宅の一室、そこには可愛いものにあふれた別世界がありました。レースのカーテンから射し込む柔らかな光は壁にかけられた絵や飾り棚の色とりどりの雑貨を照らし、絵の具や白木の匂いと合わさり醸し出す雰囲気はまるで物語の中ようです。そのアトリエの主はマト絵師であり、マトリョミン演奏家の上原光子さん。“マト”とはロシアの民芸品マトリョーシカのこと。ひとつ蓋を開けるとにひとまわり小さいマトリョーシカが現れる入れ子のお人形です。“マトリョミン”とはロシアで生まれた世界最古の電子楽器テルミンをマトリョーシカの中に内蔵させたもの。手を近づけたり遠ざけたりすることにより音程をコントロールする不思議な楽器です。上原さんはそのマトリョーシカたちに日本ならではの季節や、お祝いに贈る記念など、オリジナルな楽しいデザインの絵付けをしています。

上原さんは北海道のご出身。小さい頃から可愛い雑貨が大好きだったそうで好きが高じ上京。雑貨メーカーで企画デザインを学んだ後、自身のブ



母から子に 伝えたいこと



ランド「maminka(マミンカ)」を設立されました。マミンカとはチェコ語で“お母さん”という意味。上原さんの創作活動のきっかけは、お子さんのためにお人形を作ったり絵を描いたりすることでした。ものづくりをすることと自身を表現していくことにあまり境界を感じなかったとのこと。“母から子に伝えたいこと”をテーマにオーダー作品の制作販売、そして全国各地で個展や絵付け教室を開催しています。



母から子に伝えたいことは、言葉だけではなく色やカタチでも美しく伝えていけるということ。そのことを上原さんは優しい筆先で教えてくれます。可愛らしく彩られたマトリョーシカの中から次々と生み出されるもの、マトリョミンの不思議な音色が伝えてくれること。それは言葉を越えたところにある、母が子を見守るあたたかなまなざしなのかもしれません。上原さんがマトリョーシカの中に込めたものは受け取る人の心を開き、そこからまた新たな思いを生み出しながら世界に広がってゆきます。

maminka(マミンカ)
メール:koro@maminka.com
HP: <https://www.maminka.com/>
Instagram: MAMINKA34



文/尾澤 景子



画家 **大川 正**
おおかわ ただし

小・中学生の頃、好きだったことは何ですか。子どもの頃から絵を描くことが好きだった大川正さんが進んだのは東京藝術大学。美術学部絵画科で油絵を専攻されました。卒業後、埼玉県内の高校で美術教師として勤務。生徒は勿論、保護者や他の先生とも信頼関係を築くため様々な工夫をし、生徒一人ひとりと真剣に向き合うため、当時は自身の作品制作を封印して教職に取り組みました。実技のみを教える先生が多い中、大川先生は美術史を導入。美術を選択してもその道に進む生徒はほとんどいません。それなら美術館へ行った時、美術史の知識で絵画鑑賞を楽しめること。さらに、その試験をレポートにすることで実技の苦手な生徒も力を発揮出来るのが理由でした。

再び絵筆を持ち個展を開催した時「案内ハガキを手にしたかつての教え子達が次々来場してくれました」と、嬉しそうに語る様子に生徒との絆が



地球儀のある静物(油彩 F6号)

ひとりでも多くの人に
絵画鑑賞の楽しさを!



銅鍋と馬鈴薯(油彩 F6号)

目に見えるようでした。以前は抽象画だった作風は現在、静物画が中心で、定期的に個展をされています。他に音楽も好きで、以前から取り組んでいるチェロの演奏に加え合唱も始めたとのこと。

自身の“好き”をしっかりと心に持つことは生きる活力になります。日々の生活は彩り豊かになり、興味を抱いたことを探求し続ける力を身に付けることで、自身のロマンを広げることが出来ます。それはまさに大川さんの歩みです。

教師を定年退職後、「少しでも多くの人に美術の面白さを知ってもらいたい」と、(※)市民大学ふじみ野で、名画鑑賞講座と基礎デッサン講座の講師をされています。美術史の知識で絵画鑑賞はより深く楽しめるようになります。今後もなにか機会があれば講師を続けたいとのこと。美術と聞いて尻込みしてしまうとき、大川さんのような専門家がいてはとても心強いですね。あなたも大川先生の美術教室のドアをノックしてみませんか。

大川 正
TEL: 090-8310-5432
メール: t.yamaarashi@jcom.home.ne.jp

※市民大学ふじみ野
市内在住・在学・在学の18歳以上の方が受講できます。
詳しくは市民大学ふじみ野のHPをご覧ください。
HP: <https://f-mirai.org/gaiyo/>
(2023年12月現在)



文/井上 芳枝



セラミックペインター

岡部 一子

おかべ

かずこ



～笑顔と安らぎを生むもの～

唯一無二の自分の人生、それを生きることについて私たちはどれだけ真摯でいられるでしょうか？

難病を発症しながらも、陶絵付け作家として活躍している岡部一子さん。幼い頃は絵を描くのが苦手な理系少女でした。科学の楽しみを満喫するため高校は調理系、短大は栄養系で学び、計測器メーカーで実験助手として勤務。その人生の転換点は結婚後でした。体調を崩し病院で重症筋無力症という病名を告げられたのです。幸い治療法に効果があり少しずつ回復。退院後のリハビリ生活の筋トレのために公民館の陶芸や実用書道のサークルに参加し、陶芸は小料理屋さんに依頼され食器を作るほどに。他にも20歳の頃に師範を取得していた煎茶道を教えるようになり、生活の変化の中での発想の転換は新たな創造力を培いました。

そして、岡部さんが運命の陶絵付けと出会ったのは、煎茶道の仲間と原宿に遊びに行った時のこと。当時原宿にあった陶画舎で陶絵付けを学び、絵付けをしていると自身の病と前向きに付き合えることに気づき、その世界に引き込まれていきました。2009年には聖路加画廊で初の個展を開催。来てくれた患者さんたちの、笑顔になれた、安らぎました、と



の感想から、アーティストとして自分の体力をここに注ぎ込もうと決意。ところが活動が軌道に乗った頃、最愛のご主人との突然の別れ…身の回りの様々に追われ過労で自身も入院することに…。しかし、仲間の支えや個展に来てくれる人たちの笑顔の責任があると奮起。自分のペースで誰とも比べることなく、心の赴くように制作を続けていくことを決めました。

岡部さんの波乱万丈の人生は陶絵付けの技法にも似て、色を重ねて色を深める、光と影のコントラストのような美しさがあります。自身に起こる出来事を前向きに捉え作品に活かしてゆく…その姿勢は人生がアートそのものであることを物語っているようです。今後は地域に根ざした活動にも精力的に貢献したいと語る岡部さん。人生の色は人との繋がりで新しい色の深みを生み出します。繋がった人たちが笑顔になり安らぐこと…それが励みになりますと仰る岡部さんの佇まいは、まるで命の力が生み出した美しい作品のようでした。



2018(下盛 金彩 スクエアプレート)

ゆるらく
夢スタジオ遊楽

TEL:049-262-5661

文/尾澤 景子



ガチャガチャバンド

みんなで楽しもう。歌ってみよう、手遊びしてみよう、マラカス振ってみよう。ガチャガチャバンドの世界で、一緒に歌って踊って演奏して、とても楽しくなりました。おだやかな気持ちになって、心地よくて、思いきり深呼吸したくなりました。子どもの泣き声も演奏の一部。大きなコンサートホールには行きづらくてもここなら大丈夫。

子育て支援センターのスタッフではじめての演奏会。観に来ていたママたちが加わり、今ではママたちのバンドです。活動歴13年。演奏はもちろん、歌、手遊び、踊り、楽器紹介など、いろいろなアイデアを出し合って活動されています。活動の場は、子育て支援センターから西公民館まつり、鶴ヶ岡梅まつりと広がっています。メンバーは流動的で、新しく加わったり、卒業したり、戻ってきたり。とても風通しがよく、無理なく、一生懸命だけど肩の力は抜けていて、できることをやっていく。

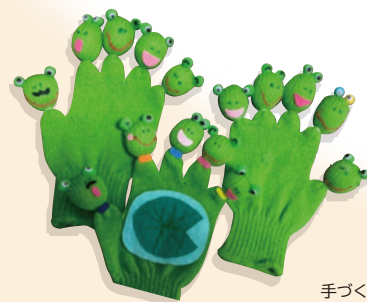
お話をさせていただいて、皆さんがとても活動を楽しんでいることが伝わってきました。お互いを信頼して、安心して発言できる場所をつくり

あげているということに力強さを感じました。新しい挑戦もしていて、かっこいいなと思いました。「新しい曲が仕上がったときの感動は何物にも代えがたい」。感動を共有できる仲間がいるって最高だと思います。歌ってみたい、新しい楽器を演奏したいと挑戦する姿から、子どもたちはきっと勇気もらっています。「家でも練習するから、家庭に音楽があって雰囲気良くなるし、子どもから思いがけないアドバイスをもらうこともある」。会話が增える、子どもの言葉を受け止める、楽しく練習して上手になる、だからもっとやりたい。素敵だなと思います。

音楽にふれるきっかけになれば嬉しい、安心して楽しんでもらえたら嬉しい、そんなやさしい気持ちをのせたガチャガチャバンド。次の演奏会が待ち遠しいです。

ガチャガチャバンド

メール:gachagachaband.fujimino@gmail.com



手づくりの小道具



楽器が弾けない
楽譜が読めなくても大丈夫!
いろんな音楽を
楽しんでいるバンドです♪

文/寺内 みか



日本舞踊家
すやま 珠山 陽舟
ようしゅう

踊りで伝え 育て続ける表現者

楽しさが伝わってきました。

これからについては「古典の世界に入って古典というものをやりとげつつある」と自身を振り返った後、「日本独特の伝統を大切にしながら残したい。このままでは古典が歌舞伎にしか残らない。このふじみ野市で、珠山流としてですがある程度残したい」と未来へ想いを馳せます。

令和5年に誕生した「ふじみ野音頭」と「We Loveふじみ野」※は、珠山さんが振付を行い、市内各所で実施された練習会でも指導にあたりました。「焦らず、あわてず、地道に、マイペースで川の流れに沿って今がある」とバイタリティとたおやかさが共存している珠山さんでした。



珠山流舞踊教室

TEL: 049-264-5363

埼玉県ふじみ野市仲3丁目3-11

※「ふじみ野音頭」、「We Loveふじみ野」の紹介は市ホームページをご覧ください。



ページ上部写真：珠山流舞踊発表会（2022年6月）前列中央が珠山陽舟さん

文/白村 さおり



盆栽
デザイナー
塚越 徹
つかこし とおる



豆盆栽大好き!!

「人を喜ばせるのが好き」という塚越さんは3代続くハーサロンを経営する傍ら、盆栽専門店と昆虫専門店も営んでいます。雪が積もったらお店の敷地に大きな雪だるまのかまくらを作って、子どもが遊んだり通行人が撮影したり、楽しいことが大好きです。

おじいさんの趣味が盆栽で「盆栽ってカッコイイ」と思った幼稚園児の塚越少年は、おじいさんが盆栽の枝を切るのを見たり、一緒に植え替えをしたり、盆栽を肌で感じる環境で育ち、その盆栽を引き継いで、手入れを継続していました。

2021年11月、近所の盆栽愛好家・森川さんが豆盆栽を見せてくれた時、「これだ!こんなに小さいのがあるのかよ」と感銘を受け、それから毎週、ハーサロンの定休日に素材を買い集め、豆盆栽作りを始めました。



盆栽には豆盆栽、小品盆栽、中品盆栽、大品盆栽があります。豆盆栽は、鉢の上辺から盆栽の上部までが10センチ以下の高さで、とても可愛いサイズ。素材となる木を土に刺し根が出てきたら、苔のついた土を根に巻き、小さい鉢に差し込む。苔の種類は何でもよく、その後、他の鉢に移して大きくしてもいいし、新芽を摘んで小さいまま楽しむのもいい。枝は針金を利用して約3カ月掛けて成形します。針金で曲げすぎて折れてしまうなど失敗もありますが、手間と年数を掛けるほど木がよくならうとします。

盆栽は中国から日本に伝わりました。いまでは4年に1度世界盆栽大会が開催され、大宮(さいたま市)を本部としてドイツ、イタリア、フランス、ロシア、ベトナム、中国など世界37カ国に支部があり、大宮の盆栽店で2年間修行して海外で先生として活躍している人もいますなど、盆栽は世界中で親しまれています。

「これからもみんなに盆栽を観て楽しんでもらいたい。そして綺麗でカッコイイ、人があつというものを作っていきたい」という塚越さん、新たな作品との出会いが楽しみです。



盆栽屋つ

TEL: 080-7726-4884

埼玉県ふじみ野市上福岡3-5-8

9:00~17:00 月・火定休

文/有賀 輝

～ふじみ野ART88(発見・発信)私たちが目指すもの～

いつの時代も変わらず行われてきた「表現する」ということ。その手法は時の流れと共に変化し、今では多くの人がSNSなどで自分自身の感じる様を表現するようになりました。表現方法もジャンルを超え、新しい取り組みも試すことが容易になり、AIなど今までの私たちの概念では想像もつかないものが生み出されるようになってきました。しかし、どのような手法をとったとしても、私たちに共通する心の奥に触れるものは変わらないものです。古の人々が手掛けた作品が、今も私たちの心に感動を生むのは、表現されたものが時間も空間も超えたところからやってくるからなのでしょう。アートが鑑賞者の心の奥に触れたとき、新しい可能性がひらかれ、今という時代を超え未来へと繋がっていく…、私たち一人ひとりの存在は、大きな時代の流れの中の一つのアートであるということ、ふじみ野市内で活躍するアーティスト達は教えて

くれます。

ART88では既成のアートという概念やジャンルにとらわれることなく、人の存在によって表現され繋がりを生み心を豊かにしていくものをアートと位置づけ、ふじみ野市内のアーティストを発見し、その情報を発信してゆきたいと考えています。とらわれない変化のある生きた関係性によって、お互いの心の中に新しいものが生まれ、発展してゆくのではないのでしょうか。皆さまが見つけたふじみ野市内のアートに関する情報も共有し、私たちも一緒に新しいものを作り出していきたいと思っています。

この冊子が架け橋となって新たなものや交流を生み、ふじみ野市全体が多様性に満ちた一つの美しいアートとして存在すること…そして、その豊かな色彩や響きが、世界中に広がってゆくことを私たちは願っています。

市民編集員／有賀輝・井上芳枝・臼村さおり・尾澤景子・
桜井信枝・寺内みか (50音順)

このプロジェクトは上記6名の市民編集員により企画・取材及び編集を行いました。



本文に見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



ART88のバックナンバーは、こちらからご覧いただけます。

ART88をいっしょにつくりませんか

アート発見発信プロジェクトでは、市民編集員を募集しています。

この冊子は、様々な分野の有志が集まり、それぞれの感性でふじみ野市の素敵な人やモノ、活動を綴ります。音楽や芸術分野、創作活動などでご活躍の方々との出会いやインタビューを通して、彼らの「感性」や「思い」に触れることができます。ご興味のある方は、ぜひふじみ野市文化・スポーツ振興課へお問合せください。

発行/ふじみ野市文化・スポーツ振興課
編集/アート発見発信プロジェクト市民編集員
〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1
TEL:049-262-8124
メール: bunka@city.fujimino.saitama.jp
紙面デザイン/有限会社荻原印刷 ogichief@dream.com